

新たな歴史館の創造をめざして ～ 長野県立歴史館の使命と目標 ～

平成26年(2014年)度評価表

評価の区分
 A 目標を上回る成果をあげた
 B ほぼ目標を達成した
 C 目標に及ばなかった
 D 目標に遠く及ばなかった

基本目標	基本目標に対する取組	主な事業及び目標値	達成値	自己評価	利用者評価 (アンケートで寄せられた意見)	協議会評価	備考
使命	県立歴史館は、長野県の歴史に関する調査研究に基礎をおきながら、埋蔵文化財(考古資料)、歴史的価値ある文書等の歴史資料の収集・整理・保存を通じて、県民の歴史遺産を子孫に引き継ぐ活動を市町村と連携して行うとともに、県民が歴史をふりかえり、未来を展望し、また学び、憩い、交流する場としての役割を果たします。						
長野県民の歴史遺産を子孫に継承するための取組をします	埋蔵文化財、文献史料・歴史資料等を収集・整理・保存し、調査研究を行います	○ 館蔵資料の調査				B	
		a 考古資料(縄文土器・木製品)の調査					
		・ 「縄文土器展」の実施を目指して調査	・ 「縄文土器展」 11月29日～2月1日開催 期間 46日間 観覧者数 2,131人	B			
		・ 「H27木の展覧会」の実施を目指して調査	・ 「H27木の展覧会」展示資料の選定 (開催予定 10月3日～11月29日)	B			
		b 明治初期の町村絵図調査					
		・ 平成27年度の展示を目指して調査	・ 長野県測量設計業協会との研究会(3回)開催 ・ H27冬季展展示に向け資料選定作業中	B			
○ 長野県速報展・遺跡発掘2015、2016の資料調査							
・ 平成27年度の展示を目指して調査	・ 「2015」 5月30日～7月12日開催 ・ 「2016」 資料調査、資料選定中	B					
○ 文献史料の収集・整理・保存							
・ 整理作業の完了	・ 収集資料の整理 (行政文書216、行政資料269、六川家文書)	B					
○ 考古資料の保存処理							
・ 収納木製品の保存処理(1,000点)	・ 木製品901点の保存処理完了	B					
○ 『信濃史料』デジタル化、データベース公開							
・ データベースの作成、Webで公開	・ 3月 データベースの作成完了 ・ 4月 Webで公開	B					
○ 館設定研究テーマの調査・研究							
・ 信濃史料等(満州移民、市河文書を含む。)の研究	・ 調査結果を「紀要」へ掲載	B					
・ 木製品の研究	・ 企画展にあわせて県外の木製品の調査を実施	B					
史資料の保護・活用に取り組み、保護思想を啓発します	○ 史資料の保存等に関する市町村への協力・支援					B	
	・ 依頼事項の90%以上	・ 市町村からの協力依頼のすべてに対応	B				
	○ 史資料保存活用講習会の開催						
・ 参加者60人(20人×3日)	・ 11月20日開催 参加者58人 『地域歴史資料保存の現状と課題』 (講師 国文学資料館准教授 西村慎太郎氏)	B					
○ 考古資料保存処理講習会の開催							
・ 参加者40人(20人×2日)	・ 11月14日、12月15日開催 参加者29人 鉄製品の保存処理と保管 (講師 当館学芸部考古資料課職員)	B					
未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします	長野県の歴史を明らかにし、その成果を普及します	○ 常設展				B	
		・ 観覧者の増加(H23年度比 5%増)	・ 観覧者 38,295人(△11.7% △5,088人)	B			
		・ 満足度 7割 【H23観覧者 43,383人】	・ 常設展アンケート結果 満足 84.5%				
		○ 企画展					
・ 観覧者の増加(H23年度比 5%増)	・ 観覧者 34,614人(+3% +938人)	B					
・ 満足度 7割 【H23観覧者 33,676人】	・ 企画展アンケート結果 満足 87.7%						
○ 個別研究							
・ 学芸部職員 1人1件の研究発表	・ 研究発表件数 1.52件/1人 (延件数 26件/職員数17人)	B					
○ 共同研究							
・ 県測量協会・市町村教委・博物館	・ 教育委員会(9市)との城下町研究会(開催回数1回) ・ 長野県測量設計業協会との明治初期町村絵図研究会(開催回数 3回)	B					

基本目標	基本目標に対する取組	主な事業及び目標値	達成値	自己評価	利用者評価 (アンケートで寄せられた意見)	協議会評価	備考						
未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします	県民の生涯学習を支援します	○ 古文書講座 (25回) ・ 受講者 900人(36人×25回) ・ 満足度 7割	・ 25回開催 受講者 975人 ・ 講座出席率 89.7%	B	(秋季企画展「信濃武士の決断」) ・ 古文書の訳文(現代文)がほしかった(各世代) ・ 展示資料が分かり難い、展示内容とテーマが合っていない(30代) ・ 展示資料に地域的な課りがある(40代) ・ パネル(解説文)に誤りがあるCheckが不足(50代) (冬季展「縄文土器展Ⅱ」) ・ 年代的序列の説明がなく分かり難い(20代) ・ 詳しい解説がほしい(60以上) 【考古学講座】 ・ 広報が不足しているもっと幅広い媒体での広報が必要 ・ 基礎知識がない者には難しかった ・ ポリウムが多く時間が少なかった、もっと時間がほしい ・ テーマが良く、地域の歴史を知ることができた 【やさしい信濃の歴史講座】 ・ 「やさしい」に力点を置いてほしい。「わかった。」「なるほど。」の気持ちに ・ 内容が浅い、さらに掘り下げた講演をお願いしたい ・ 若い人の出席を増やす工夫があれば	A							
		○ 考古学講座(3回)、探訪会(1回) ・ 受講者 200人(50人×4回、探訪会40人) ・ 満足度 7割	・ 3回開催 参加者 283人(探訪会32人) ・ アンケート結果 満足 95%	B									
		○ やさしい信濃の歴史講座(6回) ・ 受講者 600人(100人×6回) ・ 満足度 7割	・ 6回開催 参加者 1,089人 ・ アンケート結果 満足 86%	A									
		○ 講演会 5回 (速報、春・夏・秋・冬企画展等) ・ 受講者 500人(100人×5回) ・ 満足度 7割	・ 5回開催 受講者 485人 ・ アンケート結果 満足 80%	B									
		○ 大人の遠足(八十二財団との共催) 学習講座(2回)、現地見学会(1回) ・ 参加者 160人 (学習講座60人×2回、現地見学40人)	・ 参加者数 講座 2回 114人、現地見学 24人	B									
		○ ブックレット刊行 ・ 年1冊の刊行	・ 「大地に刻まれた信濃の歴史」刊行	B									
		○ 関係機関との連携 ・ 豊科郷土博物館、県図書館等協働機構	・ 連携講座の実施 (飯田市美術博物館 2回) (安曇野市豊科郷土博物館 2回)	B									
		○ 出前巡回講座 ・ 南信地方で考古学講座の開催	・ 12月6日 茅野市尖石縄文考古館で開催 受講者 35人	B									
未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします	学校教育を支援します	○ 効果的な展示利用方法の開発 ・ 常設展示用学習シート(小学校)を活用したプログラムの開発試行	・ 「新学習シート」の作成	B	【学校見学時の展示解説】(アンケート回答 231校) 『評価』 <table border="1"> <tr> <td>施設</td> <td>大変良い 66%、良い 33%、普通 1%</td> </tr> <tr> <td>解説</td> <td>大変良い 78%、良い 19%、普通 3%</td> </tr> <tr> <td>満足度</td> <td>大いに満足 74%、満足 26%、不満 なし</td> </tr> </table> 『意見』 ・ クイズ形式のワークシートがあると、自由見学時有効活用ができる ・ 実物を見られる、触れることができる貴重な体験ができ、学ぶ意欲に繋がった 【博物館実習】 ・ キャプションの英語表記 ・ 歴史講座の定期的な開催 ・ 展示解説へのボランティア活用 ・ 学芸員による展示解説の維持	施設	大変良い 66%、良い 33%、普通 1%	解説	大変良い 78%、良い 19%、普通 3%	満足度	大いに満足 74%、満足 26%、不満 なし	B	
		施設	大変良い 66%、良い 33%、普通 1%										
		解説	大変良い 78%、良い 19%、普通 3%										
		満足度	大いに満足 74%、満足 26%、不満 なし										
		○ 学校見学時の展示解説 ・ 希望校の90%以上	・ 実施率 91%(254校/280校) (未実施 短時間見学、希望校集中)	B									
		○ 学校見学時のバックヤード探検 ・ 希望校の90%以上	・ 実施率 94%(147校/157校) (未実施 希望校集中)	B									
		○ 職場体験学習の受入 ・ 希望校の90%以上	・ 実施率 55%(6校/11校) (未実施 希望日休館、希望校集中)	C									
○ 教員研修への協力、実施 ・ 研修希望の100%受入	・ 実施率 100%(3団体受入)	B											
○ 出前授業(講座)の実施 ・ 希望講座の90%以上	・ 43講座 受講者 2,107人 (すべての要望に対応)	A											
○ 未利用校の利用促進 ・ 未利用校への働きかけ	・ 中南信校長会、教頭研修会で要請	B											
未来を映す歴史知識の泉としての役割を果たします	歴史情報を提供します	○ 史資料の閲覧 ・ 閲覧者の増加(H23年度比10%増)	・ 閲覧件数 750件(109.8%) (H23 683件→ H26 750件)	A	A								
		○ ホームページの充実 ・ アクセス数の増加(H23年度比10%増)	・ アクセス件数 65,131件(160.3%) (H23 40,637件→ H26 65,131件)	A									
		・ ホームページの内容の見直し	・ ブログの月2回以上更新 ・ イベントガイドの毎月更新 ・ 出版物一覧の掲載	B									
		○ 歴史館情報のマスコミへの周知 ・ 記事数の増加(H23年度比5%増)	・ 記事数 88件(141.93%)(H23 62件) 信濃毎日新聞「しなの歴史再見」の執筆 24回	A									

基本目標	基本目標に対する取組	主な事業及び目標値	達成値	自己評価	利用者評価 (アンケートで寄せられた意見)	協議会評価	備考
楽しむ場・憩いの場・交流の場としての役割を果たします	参加して楽しめる場、憩える場とします	○ 体験イベントの開催 (勾玉づくり、縄文人になって遊ぼうetc)	・ 参加者の増加(H23年度比10%増)	・ 開催日数6日(参加者1,796人) (H23比 336%(H23 534人))	A		
		○ 親子映画会の開催	・ 参加者の増加(H23年度比5%増)	・ 開催日数4日(参加者1,495人) (H23比 193%(H23 774人))	A		
県民が参画した館の運営を進めます		○ 古文書愛好会の育成と活動支援	・ 古文書講座受講者の半数の入会 ・ 参加者数 500人(延べ)	・ 入会者数 73人 参加者数 延べ612人(158人)	B		
		○ 運営サポートボランティアの育成	・ ボランティアの募集、育成開始	・ ボランティア数46人(H23 21人) 養成講座6回 参加者数23人	A		
		○ 利用者アンケートの充実	・ 来館者アンケートの回収率向上 ・ 学校アンケートの回収率向上 ・ 講演会等アンケート内容の見直し	・ 来館者 1,024人(H25 776人) ・ 学校回収率 89.2%(H25 84%) ・ 満足度を4段階とし数値化	B B B		

総合評価	<コメント>	<評価>
------	--------	------